

## CCRCモデル事業に6市町

東京圏であふれつつある高齢者の受け皿として、国が呼びかける新しい住まい方「日本版CCRC」への取り組みが九州でも始まった。地方創生策として前向きな地域がある一方で、社会保障費増の懸念から様子見の自治体も。お年寄りにとっては、安心して第二の人生を送れる環境がなければ移住には踏み切れない。識者は「CCRC促進のためにも、在宅介護の充実など暮らしの仕組みづくりを急ぐべきだ」と指摘する。【1面参照】

# 余生の受け皿 九州模索

「集団就職で鹿児島を去った高齢者を呼び戻した」。鹿児島市のベッドタウン、鹿児島県始良市を中心に、病院や介護事業所などを運営する医療法人グループ「玉昌会」の高田昌実理事長(60)は意気込む。玉昌会は2012年までに、1・5キロ圏内に駅や商業施設がある元厚生年金福祉施設の敷地約4畝を購入。ここに、新病院や介護

## 社会保障費増に懸念も

### 日本版CCRCを推進する意向のある九州の自治体

福岡県	北九州市、大牟田市、朝倉市、小竹町、赤井
宮崎県	なし
鹿児島県	長崎県、豊後市、五島市、南島原市、佐々町
熊本県	熊本市、人吉市、合志市、長洲町、小国町、山都町、湯前町、水上村、苓北町
大分県	別府市、臼杵市、杵築市
宮崎県	宮崎市、延岡市、日南市、小林市
鹿児島県	始良市、十島村、大崎町、錦江町、宇核村、瀬戸内町、龍郷町、伊仙町

※内閣官房まち・ひとしごと創生本部による意向調査(今年4月)から。太字は交付金を活用したモデル事業に取り組む6市町

と、九州で日本版CCRCを推進する意向のある自治体は、政府の交付金を活用したモデル事業に取り組む6市町を含めて計33市町村。県レベルでも、人口減少率が九州で最も高い長崎県

CCRCについて語る玉昌会理事長の高田昌実さん(右から2人目)。後ろの建物は旧厚生年金福祉施設

鹿児島県始良市



大分県の担当者は「国の構想が固まっておらず、検討中」と前置きしつつ「将来の医療介護負担が増えるのでは」と懸念を示す。宮崎県の担当者は「若い人が残ったり、移り住んだりするための施策が優先。今進めている、住み慣れた場所に住み続ける施策との折り合いも難しい」。

は8月、全国でも珍しい産学官と市町の推進協議会を設立した。離島の医療介護環境の整備なども盛り込んだCCRCの「長崎モデル」をつくる計画だ。一方で、域外からの高齢者が増えることに不安もある。飯田崇雄

(飯田崇雄)